

授業科目名	授業担当者(担当)氏名	区分	単位	年間授業時間	受講学年	開講年次
専攻実技 I	銅 銀 久 弥 (Vc) 田 部 京 子 (Pf) 岡 田 博 美 (Pf) 川久保 賜 紀 (Vn) 他	必修	4	32時間	1	毎年

### ■授業内容・形態等

#### 《学修目標》

専攻する楽器の演奏において必要とされる「楽曲の各箇所に適した音を奏でる技能」、および「多角的な視点から楽譜を分析し、演奏に反映させる能力」の習得を目標とする。さらに、教場内にとどまらず、リサイタルIやコンチェルト実習といった実践的な場において成果を発揮するための学修も行う。

1. 4月のオリエンテーション時に「専攻実技担当教員」を決定する。研究・指導上必要がある場合には年度途中で担当教員を変更することもあり得る。
2. 専攻実技担当教員の決定については入学時の状況（入学前の学習状況など）、学生の研究計画、指導上の観点などを検討し「研究科委員会」で確認のうえ、決定する。
3. 年間「32時間」のレッスン受講と年次試験をパスすることにより「4単位」が与えられる。
4. レッソンは年間16回（1回2時間）を原則とする。
5. 年間のレッスンのスケジュールは当該年度の研究計画を中心に、年度当初のオリエンテーション時に担当教員との相談により決定する。前後期ともに「隔週で各8回」を原則とするが、必ずしもこれに固執しない。あくまでも学生と教員の間での有効かつ綿密な計画立案を前提とする。
6. レッソン受講の記録は、受講票に記載するものとする。
7. 所定の演奏試験についての詳細（日程、内容、審査、評価など）は別に定める。
8. 弦楽器専攻生の専攻実技レッスンあるいは試験において「ピアノ伴奏者」を必要とする場合は、原則として学生各々が指導教員の了解の上で交渉し、決定するものとする。

※ 成績はレッスン受講状況および演奏試験の結果で評価する。

評価は100点を満点とする点数とする。79点以下は不合格（単位不認定）とする。

授業科目名	授業担当者(担当)氏名	区分	単位	年間授業時間	受講学年	開講年次
専攻実技 II	銅 銀 久 弥 (Vc) 田 部 京 子 (Pf) 岡 田 博 美 (Pf) 川久保 賜 紀 (Vn) 他	必修	4	32時間	2	毎年

#### ■授業内容・形態等

##### 《学修目標》

専攻実技Ⅰを更に進め、より高度な技術、音楽性の習得を目標とする。リサイタルⅡ、コンチェルト実習、修士リサイタルといった実践的な場において成果を発揮するための学修も行う。

1. オリエンテーション時に「専攻実技Ⅱ」の担当教員を確認、決定する。研究・指導上必要がある場合には、それまでの担当教員を変更することも有り得る。
2. 実技担当教員については前年度の状況、2年目の学生の研究計画、学生の意思、指導上の観点などを検討し「研究科委員会」で確認のうえ、決定する。
3. 年間「32時間」のレッスン受講と授業内での研究成果の発表により「4単位」が与えられる。
4. レッソンは年間16回（1回2時間）を原則とする。
5. 年間のレッスンのスケジュールは当該年度の研究計画を中心に、年度当初のオリエンテーション時に担当教員との相談により決定する。前後期ともに「隔週で各8回」を原則とするが、必ずしもこれに固執しない。あくまでも学生と教員の間で有効かつ綿密な計画立案を前提とする。
6. レッソン受講の記録は、受講票に記載するものとする。
7. 弦楽器専攻生の専攻実技レッスンあるいは試験において「ピアノ伴奏者」を必要とする場合は、原則として学生各々が指導教員の了解の上で交渉し、決定するものとする。

※ 成績はレッスン受講状況および授業内での研究成果の発表等で評価する。  
評価は「合格」又は「不合格」の表記とする。